

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

蘇生する世界を間違えた?!

【作者名】

きろる

【あらすじ】

シャーマンキングの麻倉葉王の弟が兄の手伝いをしようと地獄から生き返って見たらそこは、海？無人島？ここどこ？

な展開から兄の元へ帰る為、自分の一味を立ち上げ海を進む。

果たして一味の仲間とは…

始まり

プロローグ

地獄のとあるコミュニオン

二人の男が崖の淵に立ち、空を見上げていた。

一人は、髪が腰の辺まで伸びており、後ろには、大きな紅い巨人を従えていた。

一方、もう片方の男は、顔は先ほどの男と瓜二つと言っていていい程似ており唯一先ほどの男より、つり目で鋭い目をしていた。髪も短く肩の少し上程までしかない。

また彼も背後に巨人を従えていた。…しかし先ほどの男と違い、白い巨人と黒い巨人の二体である。

「樹王、綺麗な空だと思わないか？」

「…そうだね。星が綺麗な。…兄さん、やっぱり麻倉にするの？」

紅い巨人を従えた男、大陰陽師 麻倉葉王が二体の巨人を従えた男、麻倉葉王が弟、麻倉樹王に声をかける。

樹王は、兄の言葉に答えると共、兄に気になっていた事を聞く。

「そのつもりだよ。なんせ麻倉には、僕達の血が流れてる。巫力、持ち霊共に揃った今、勝ちにいくつもりだよ。…樹王ももちろん麻倉だろ？」

「……いや、今回は仲間を集める事もあるから違う家にしようと思ってるんだ。仲間は、人でも多くいた方が良くからね。……いれば盾にもなるからね。」

「盾ね… 相変わらずだね。…さてそろそろ行くっか。」

「そうだね。そろそろ…」

二人が話終わる前に二人と三体の巨人の姿は、その場から消えていた。

|||||

東の海

そこでは、とある客船が海賊船に襲われていた。

「げはははは。野郎共、金と女と食い物以外いらねえ。やっちまえ!!」

海賊達は船長の言葉を聞き、略奪にさらに力を入れる。

同船のとある船室、そこには腹の大きな女がベットに横になり息を荒くしていた。

女の顔からは、脂汗が吹き出しベットを冷たく濡らしていた。

誰が見ても女は、妊婦であり今にも産まれそうな状況にある。

そんな船室のドアが勢いよく開け放たれる。

「へっへへ…こんなところにも一人、いや二人か。へへへ…悪く思うなよ。こんなところにいるこの船が悪いんだぜ。それにしてもこんな妊婦を殺れるなんてついてるぜーこりゃ神様にでも感謝しなきゃな。はっはははは。」

ドアから剣を片手に下品な顔をした男が入って来る。

女は、男を見て絶望的な顔になる。

「はあはあ、お願いします。この子だけは…この子だけは、見逃して下さい。私は、どうなっても構いません。この子だけは、見逃して下さい、うっうっ…」

女は、話しきる前に陣痛の波によりいきむ。

男は、そんな女を見逃す訳も無く、女目掛けて剣を振りかぶる。

しかし、その剣が女に届く事はなかった。

【女よ出産の儀、大義であった。男よ、この者は今世での母だ。貴様には引いてもらおう。】

男の剣は、宙に浮かぶ黒い小人のような者が止めていた。

黒い小人の後ろに似たような姿の白い小人に抱かれた赤ん坊がいた。

先程の声の主は、どうやらこの赤ん坊らしい。

男は、見たこともない小人や赤ん坊を見て腰を抜かす。

「な、なんだ?!お前ら何者だ!来るな!来たたら切るぞ。」

男は、その剣が小人に止められた事も忘れ、腰を抜かしたまま懸命に剣を赤ん坊に向ける。

【僕は、樹王。麻倉樹王。未来のシャーマンキングの右腕となる者だよ。】

第一廻 兄さんはいないみたいだね…

東の海のとある島

砂浜

そこには、5歳程の黒髪の男の子と杖を持った白いヒゲの老人がいた。

男の子は、何か武術の型の様なものを一つ一つ動作を確認する様にゆっくりと行っていた。

その隣で老人は、岩に座り、男の子を見ていた。2時間程男の子の行動を見ていた老人は、座っていた岩から立ち上がり、男の子に声を掛ける。

「樹王、型の練習は、そんなもんでいいじゃろ。」

「…ああ、リカルロか、お前が近くにいたせいで集中で出来なかったぞ。」

「あれしきで集中を乱すなんぞ、まだまだひよっこじゃな。それより朝飯にするぞ。お前を待ってて、僕は腹が減ってしょうがないわい。ほれ、行くぞ。」

「飯？…はあ…いつも先に食べと言っているだろ。」

「馬鹿もん！孫と一緒に飯を食おうとして何が悪い！」

老人、リカルロは、そう言つと森の中へ向かって歩いて行く。

男の子、樹王もブツブツと文句を言いながらもリカルロに着いて森

に入っていく。

そうこの男の子こそ、麻倉葉王の弟である麻倉樹王である。兄と一緒に生き返ったはずがなぜか生まれてすぐに海賊と名乗る男に剣を向けられ、持ち霊のスピリットオブシャドウで対抗したところ極少量の巫力だったにもかかわらず、船ごと消し飛ばしてしまい産まれて30分もしないうちに天涯孤独の身となった。

樹王も自分が力加減を間違えるなんて思ってもおらず、5分程固まってしまふ事となった。

その後、意識が覚醒した樹王は、まず自分の世話をさせる人間を探すべくスピリットオブシャドウと対をなすスピリットオブシャインに抱えられ上空からまずは、島を探すことにした。

樹王は、空から下を見て自分が生きていた世界は、こんな形だっただろうかと考えていた。

【…ん？何かがおかしい。何かが違う。それに兄さんの霊圧が感じられない……なぜだ？兄さんも一緒に生き返ったはず……それに、これだけ飛んで島が見つからないなんて…それにさっきの技の威力、あんな初歩的な間違いをするなんてありえない。これは、落ち着いたら少し調べてみるか。とりあえずは、安全な所だな。】

スピリットオブシャインに抱えられた樹王は、それから1時間程飛行した後、一つの島に降りたった。

スピリットオブシャドウに島の探索を頼み、樹王はスピリットオブシャインに抱えられたまま少し休む事にした。

どれほど時間が経ったか、樹王は体を揺すられる感覚で目を覚ま

容姿 葉王をつり目にした感じの顔立ち。

年齢 原作開始時、18歳 元は、葉王の2歳下。

巫力 300万 シャーマンキングの世界から世界の壁を越えて生き返った為、力が倍増している。

持ち霊 スピリットオブシャドウ；グレートスピリッツから産まれた世界の影・闇を司る精霊。スピリットオブファイアと同じく、魂を食べることで成長できる。

スピリットオブシャイン；グレートスピリッツから産まれた世界の日・光を司る精霊。スピリットオブファイアと同じく、魂を食べることで成長できる。

悪魔の実；ゾオン系 神仏種 カミカミの実 モデル ポセイドン

海の神、ポセイドンの力を使うことができる。海水を自在に操ったりすることができ、海に落ちても海の神と言っことでカナヅチになることはない。またほとんど実態はなく、ロギアのように攻撃を受け流す事が出来る。

ONE PIECEの世界に来て、六式・覇気を修得。兄のいる世界に戻るための旅に出る。旅の途中で悪魔の実を食べ、能力者となる。

ジンガ・リカルロ

性別 男

容姿 特徴は、長く伸ばしたヒゲ。杖を使い歩く。

年齢 77歳

樹王の育ての親であり、六式・覇気の師匠でもある。
樹王の事を本当の孫の様に思っている。